

No. 215【2016年7月1日配信】
新青森県総合運動公園（担当：鈴木）

こんにちは。嘱託員の鈴木です。

この週末、7月2日～3日は県内各地を会場に第9回青森県民スポーツ・レクリエーション祭が開催されます。その会場の一つ、宮田にある新青森県総合運動公園（以下、新運動公園）は、はじめサッカーワールドカップ2002の会場として計画された施設でした。

平成4年（1992）、青森県は初めての日本開催を目指していたW杯の会場候補地に名乗りを上げました。スタジアムは当初、安田の総合運動公園内が想定されていましたが、翌々年に近隣で三内丸山遺跡が見つかったこともあって建設計画が見直され、いくつかの候補地の中で鉄道・道路のアクセスの点から宮田地区に決定しました。平成8年より建設が開始されましたが、同年にW杯の日韓共同開催が決まって会場数が減少、残念ながら青森での開催はなりませんでした。

その後、計画を変更して建設が進められ、平成14年に「青い森アリーナ（現マエダアリーナ）」など第一期工事が完成。平成15年に開催された青森県初の総合国際スポーツ大会である第5回アジア冬季競技大会では、ここで開会式・閉会式が執り行われました。



青い森アリーナ(平成16年撮影)



新青森県総合運動公園の開園記念碑

現在はアリーナやプール・トレーニングルーム、球技場のほか、^{あずまや}四阿を併設した遊具広場もでき、ウォーキングやジョギングのできるコース（ショート1.0km、ロング2.5km）などがあります。ロングコース途中の公園東南端からは青森市街や陸奥湾が見下ろせて気持ちのよい風を感じます。



ジョギングコース



公園から見える陸奥湾

また、敷地内を流れる小川には雨天時の増水に注意を促す看板があり、その上流のすりばち状の多目的広場には豪雨時には浸水の可能性があるとして書かれた看板があります。これは山林を伐採・整地して公園を建設したため、豪雨時に山から雨水が一举に川に流れ込むことを緩和する目的で、一時的に貯水する防災調整池の役割を広場が兼ねているからです。この小川は、これまでたびたび洪水に見舞われた貴船川に合流しますので、多目的広場が洪水調整施設として治水に役立っているのですね。



敷地内を流れる小川



雨天時の増水に注意を促す看板



多目的広場前の注意看板



多目的広場と注意看板

そして、アリーナは災害時の東部地区収容避難所に指定されており、敷地は地震などの大規模災害の際に大人数が避難できる広域避難所にもなっています。

私はときどき、ここを1時間くらい歩くのですが、先週は広い園内にブタナの黄色い花が一面に咲いてとてもきれいでした。皆さんも新運動公園に行かれる機会がありましたら、軽い運動を兼ねて園内をちょっとまわってみませんか。とても気分転換になりますよ！

※今回の内容は『barrage journal』（駒込ダム建設所新聞）を参考にしました。